



川を渡るぼんてん



全国花火競技大会

「かわ」と「まち」の「まち」——連携そして融合へ



雄物川カヌークルーズ

かわまちづくりシンポジウム

開催記録

開催日／平成19年11月19日(月) 会場／シャインプラザ 平安閣大曲
主催／大仙市・国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所・秋田県仙北地域振興局



開催趣旨

秋田県大仙市を流れる「母なる川・雄物川」は、いにしえから市民の暮らしに多くの恩恵をもたらし、地域の発展に大きく寄与してきました。中でも舟運がもたらした歴史・文化・風土は、現在でも神宮寺地区・大曲地区・角間川地区にかつての面影をうかがわせ、歴史的文化遺産として残っています。

また、雄物川の悠々の流れや嶽山を代表とする大自然は、憩い・癒し・くつろぎの場として多くの市民の方々に親しまれ愛され利用されています。言うまでもなく、今昔、「かわ」と「まち」は人々の暮らしと密接に繋がっています。

「大曲かわまちづくり」構想は、花火の街として全国に名を知られる大曲において、癒しの「かわ」と賑わいの「まち」が連携し融合を図り、市民の方々が一層親しみ、誇れる地域を創造する事を目的としております。

構想は市民の皆様と協働し策定を進めています。雄物川と玉川・丸子川・横手川などの「かわ」の持つ多様な機能と、産業・歴史・文化施設といった「まち」の様々な資源を連携させ、河川空間と都市空間の融合・相乗効果により互いの魅力を更に引き出したいと考えています。

今回のかわまちづくりシンポジウムは、多方面でご活躍される皆様から「かわづくり」「まちづくり」及び「かわまちづくり」についてご意見を頂き、「かわ」と「まち」のつながりやその活かし方を市民の皆様と一緒に考えるものです。

プログラム

13:00	開場	13:30	開会
13:30	主催者代表挨拶	大仙市長	栗林次美
13:35	来賓祝辞	大曲商工会議所会頭	高橋寛氏
13:40	基調講演	「かわまちづくりと観光」 (株)ジェイティービー常務取締役	清水愼一氏
14:40	話題提供	「かわまちづくりについて」 国土交通省河川局河川環境課長	中嶋章雅氏
15:10	休憩		
15:20	「大曲かわまちづくりワークショップ」報告		
15:35	パネルディスカッション	「癒しの『かわ』と賑わいの『まち』一連携そして融合へ」	
	●コーディネーター	秋田魁新報社 論説委員長	穴戸 豊和氏
	●パネリスト	大仙市長	栗林 次美氏
		大曲商工会議所青年部 会長	小西亨一郎氏
		(株)東北地域環境研究室代表	志賀 秀一氏
		大仙市民	白土 香さん
	●アドバイザー	国土交通省河川局河川環境課長	中嶋 章雅氏
17:15	閉会		

あいさつ



主催者代表挨拶

大仙市長
栗林 次美



来賓祝辞

大曲商会議所会頭
高橋 寛氏

講演



(株)ジェイティービー常務取締役
清水 慎一氏

基調講演

「かわまちづくりと観光」

強まる地場志向

- 秋田県は、豊かな米や水、自然等を生かした観光に力を注がなければ元気が出ないのではないか。交流がなければ活力はわかない。
- 観光という言葉は元来「国の光を見る」という意味。受け入れ側は、その地域ならではの多彩な面白さを提供することで、人・物・金が動く交流や交易につながっていく。
- これからの観光は、自然景観、環境、歴史、伝統、食文化、街並みなどあらゆるものが関わってくる。大曲の花火には毎年70万人もの観光客がやってくるが、ほかの季節にも来てみよう、あるいは秋田県内をあちこち回ってみようと思わせる仕組みを築き上げたい。
- 歴史も物語もある川は、地域の魅力として重要な舞台になってくる。遊び、学び、スポーツ、賑わい、連携など多くの機能を有してもいい。何よりもみんなの協働の場と捉えられるのではないだろうか。
- 雄物川という資源を生かすため、行政と民間が一元化した組織を作り動いてほしい。広域連携も大切なポイントで、うまく運べば自然に観光客はついてくる。



国土交通省河川局河川環境課長
中嶋 章雅氏

話題提供

「かわまちづくりについて」

川と人の関係が復活。賑わいを取り戻そう。

- 平城京、平安京の時代には、中国文化の窓口である大宰府と都を結ぶ交通が最も重要であったことから、陸路は山陽道、水運は瀬戸内海から大阪湾を経て淀川を上るルートが非常に発達。北方からは、敦賀や小浜(福井県)から琵琶湖、宇治川を通して都へ入るルートが盛ん。
- 当時の日本の物流は水運への依存度が高く、江戸時代に隆盛を極めた。川沿いには魚河岸に代表されるように数多くの河岸、つまり荷揚げ場が設けられ、その背後にまちが形成されて発展した。
- 明治期に鉄道が敷設され、水運は物流の主役を明け渡すことになる。水質汚染が進行して川は見向きもされない存在になり、治水機能強化のために河岸をコンクリートで固めたことで、川と人がますます離れていった。
- 昭和30年代に入って水質浄化策が本格化し、成果が表れ始めると河川敷の活用、生物との調和などが施策に取り入れられるようになった。平成9年には河川法が改正され、治水、利水に加えて河川環境が明確に目的化された。
- かつてのように人々が集う川にして賑わいを取り戻そうという取り組みが活発化している。市街地整備と合わせて河川事業を展開するふるさと川の事業、桜堤モデル事業、水辺プラザ整備、子供たちが川で遊ぶことを念頭に置いた水辺の楽校などがその具体例だ。
- 今、川と人、川とまちの関係が復活しつつある。国としては地域の人々が主人公になり、地域の特徴を踏まえたかわまちづくりを支えていきたい。

パネルディスカッション



ディスカッションでは、パネリスト・アドバイザーがそれぞれの立場から川を生かしたまちづくり、川との接し方、川への思いなどを語り、「かわまちづくり」について、たくさんの提案が出されました。



コーディネーター

秋田魁新報社 論説委員長
戸 豊和氏

宮城県出身。昭和50年秋田魁新報社入社。社会部、東京支社、政治経済部記者などの後、総代支局長、政治経済部次長、社会部長代理、整理部長、編集委員兼報道部長、論説委員長などを歴任。平成19年より現職。

パネリスト

大曲商工会議所青年部 会長
小西亨一郎氏

大曲市出身。
 NPO法人大曲花火俱樂部副会長、企画・花火研究担当、カネトク卸組合センター(株)取締役事業部長。

パネリスト

大曲市長
栗林 次美氏

大曲市出身。上野大学経済学部経済学科卒業後、(株)ダイヤモンド・タイム入社。衆議院議員秘書・秋田県議会議員・元大曲市長を経て現在大曲市長。

パネリスト

(株)東北地域環境研究室代表
志賀 秀一氏

北海道札幌市出身。
 中央大学経済学部卒業後、北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)入庫。2001年から(株)東北地域環境研究室代表、国土交通省東北地方交通審議会委員。

「大曲かわまちづくりワークショップ」報告

これまで検討し、まとめ上げた「フットパス構想」について報告しました。

各地区のフットパスルートの見どころを紹介

神宮寺地区

- 雄物川神宮寺巒眺望の小みち
- 神宮寺歴史探訪の小みち
- 神宮寺巒山麓の小みち



佐々木昭元氏

大曲地区

- 大曲かわまちドリームロード
- 野鳥と山野草の小みち
- 羽州街道の小みち



黒澤明夫氏

角間川地区

- 川港親水公園・出川の小みち
- 角間川歴史の小みち



金山浩美氏

パネリスト

大曲市民
白土 香さん

広島県福山市出身。
 大曲市立四ツ屋小学校図書ボランティア。夫の転勤で2年前から大曲市在住。3人の小学生の子供を持つ母親。

- かわまちづくりは、子供達が安心して水と触れ合い、わくわくするような場を大人が用意してあげたいと願っている。ザリガニ取りやサケの稚魚放流なども、もっともっと機会が増えればいいと思う。
- 川を考えるに当たっては、必要以上に観光客を意識せず、そこに住んでいる人々がつながる場所であることが大切ではないか。施設を造るならば、地域住民の要望をしっかりと聞いた上で進めてほしい。
- 川へ行けば人がいて、誰かが声を掛けてくれ、子供達にいろいろ教えてくれる。ますます川が好きになり、人を好きになってくれるはず。

アドバイザー

国土交通省河川局河川環境課長
中嶋 章雅氏

奈良県出身。
 京都大学大学院土木工学科修了後、建設省入省。建設省河川局河川計画課河川計画調整室長、建設省北部地方建設局富山工事事務所長、独立行政法人水資源機構関西支社長を歴任。平成19年より現職。

- 川は、安全基盤がしっかりしているかどうかがまずあり、次いで水質、景観などの基本的な素材がある。雄物川は素材がものすごく優秀。その素材を、今後どのように個性あるものにしていくかということに工夫や熱意が出てくる。
- 河川環境行政を考えた時に「繋ぐ」は極めて重要なキーワード。川の上下流、陸域と水域、本川と支川、川と水路、そして時間も繋ぐ。
- 河川管理者・市民の方それぞれが持っている情報を共有し、どのように充実していくのかをそれぞれまた地域で考えて頂ければと思う。

この「かわまちづくりシンポジウム」に対するご意見等

- 雄物川流域・大曲市には素晴らしい資産がある事が共通認識される場となった様に思う。
- テーマにもあった「つなぐ」ことを今後の課題としてほしい。
- 清水氏の観光に関するお話が非常に面白く、秋田県の施策にとっても重要なポイントではないか。
- 基調講演は、今まさに市民参加の街づくりのヒントが沢山あり一つずつ実践実行していきたいと思った。
- 清水氏の話では自分の住んでいる地域を悪く言う所は発見しないとの事。大曲市は花火は有名だけど何も無い所だと私自身思っていたため、発掘しようとしていないだけだったと反省。
- 都会には無い素晴らしい自然、河川、特産物を地域なりに次世代に活かして伝えていきたいと感じた。
- 地域が川を通して成り立っていた時代まではいなくても、もっと川を見て生活するような仕組みが欲しい。
- 志賀氏のお話「知らなければ語れない」を聞き、市民として市の歴史を再学習したい。そこからかわまちづくりの自分の思いが広がりそう。
- 白土さんのように、子供も大人も親しめる環境づくりをみんなで、そして利用できる大人たちの余裕を。

これからの「かわまちづくり」に対する要望等

- 雄物川を主流とした勉強会(歴史も含め)を広範囲の人々を講師に開催したい。
- 河川は住居地域の中心に線状位置しているため、利用は教育上、文化上貴重なものとなると思う。
- 雄物川・玉川・丸子川の河川敷は、日本のファールと言われた仁部富之助の野鳥観察のフィールド。まとまった亡部先生の紹介・展示やバードウォッチングの案内を整えてもらいたい。
- まず地域を知りそれを伝える人材の確保・育成を同時に行い、次世代へつなげる必要があると思うので、中高生や大学生を積極的にワークショップに参加させてほしい。
- 人々が群れたがるテーマがほしい。大曲市の誇れる食物がほしい。
- 森林・かわ・人々の暮らしのつながりを大切に、決して大曲駅前だけの「賑わいのまち」になることのないようお願いしたい。

大曲かわまちづくりワークショップ

「かわまちづくり」が地域と一体となった事業となり、また、地域の創意工夫が活かせる仕組みを構築するため、市民団体・地元住民によるワークショップを開催しました。

今回は、「フットパス」をテーマに3回開催し、現地調査、検討会、意見交換を行い、市民が描く魅力あるかわまちづくりの構想をまとめました。

「フットパス」とは、「歩くことを楽しむための小径(こみち)」という意味で、「かわ」と「まち」を結んで「雄物川」と「地域観光資源」との連携を目指します。

第1回 平成19年3月13日

かわまちづくりとフットパスについての概要説明、地域資源の発掘とフットパスルートの自由討議。



第2回 平成19年7月20日

現地調査を行い、挙げられた課題を踏まえた上で、フットパスルートの絞込みとルートの名称決定。



第3回 平成19年9月4日

カヌー体験を行い川からの魅力を再発見した上で、フットパスルートの取りまとめ、最終ルートを設定。



国土交通省東北地方整備局河川部長

南 哲行氏

高知県出身。
昭和52年国土交通省入省。奈良県土木部長、国土交通省東北地方整備局道路部長を歴任。平成18年より現職。

「平成19年10月30日秋田魁新聞掲載記事」より抜粋

川利用の新視点 ～「まちづくり」に活かす

- 国や県、市町村はこれまで、「かわ」を「まち」における貴重な水辺空間として治水のみならず、憩いの空間として意識した河川行政を進めてきたが、平成18年度からは、「かわまちづくり」と呼ぶ新たな施策を展開している。
- 市民が訪れるかわとまちを目指して、地域と河川管理者が協働して、「かわ」と「まち」の関係の再構築を行い、元気な地域をふやすという狙いだ。
- 「川に何を造るか」より「川で何をやるのか」を重視し、地域の皆さんに考えてもらう共同企画型ともいべきスタイルで挑戦したいと考えている。
- 私たちは川の敷だけ、川や地域の個性があふれる「かわまち」ができることを願っているし、少なくとも「汚い」「臭い」「近寄れない」川からの脱却だけはしたいと決心している。

いっしょに考えましょう。私たちが住みやすい、誇りをもてる「かわまちづくり」。

本紙面をご覧になった感想、ご意見を下記事務局宛郵送かファックスでお送りください。今後の活動に役立てたいと思います。

事務局:大仙市建設部都市計画課

〒014-0063 大仙市大曲日の出町二丁目8-4

FAX.0187-63-1930



国土交通省湯沢河川国道事務所

<http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/>